

私の 随想録



今回のライター

沼 祐助さん

— Yusuke (本宮)
— Numa —



トライアスロンが趣味で20年以上続けています。今乗っているバイクは、サドルやハンドルなどをカスタマイズしています。お気に入りの1台です。



「ベトナム旅行」

私は本宮に生まれ育ち、結婚後郡山に住んでおりました。が4年前本宮へ戻ってきました。

結婚前からアジア旅行が好きで、長期休みの際にはカンボジア、ラオスなどをひとり、または友人と旅行しました。中でも、現在は

経済発展が著しいベトナムにはよく行きました。世界遺産や有名な観光地を巡るのも好きですが、ローカルバスや電車で揺られ人々の生活に触れ、道端の何気ない風景を五感で感じながら歩くのが好きで、食堂などでも地元の人々に混じり食べたりしました。雑踏でものすごい数のバイクが行き交う中の露店で米の麺「フォー」を食べ

たりと、日本ではなかなかできない経験もできました。日本にいてもホンダのカブの音を耳にしたり、コリアンダーなどのハーブの香り嗅いだときにベトナムを思い出すときがあります。

数年前にベトナムへ行く機会がありました。都市では以前な

かった大きなビルが増え、通りを埋め尽くすほど走っているバイク対策としての地下鉄の工事も進んでいました。発展をうれしくも感じましたが、以前から残るベトナムらしい生活スタイルが消えつつあることに悲しさも感じました。

そんな旅行をしているうちに、国内旅行をする際にも地元の食べ物や生活文化を以前にも増して見るようになり、旅の楽しみ方のスキルを得たような気がします。本宮においても発展に期待しつつ、いつまでも住みやすさが変わらぬ個性豊かな町であって欲しいと願います。

6月号は私が書きます！



次回は安沢耕一さん（松沢）です

しあわせのたまご



原案：あだち地方地域自立支援協議会
生活支援部会
イラスト：さくらさら

～車いすの人に出会ったら～



※障がいは多種多様であり、同じ障がいでも一人一人状態が違います。このマンガの内容は一例です。

今月から連載がスタート!

今月から福祉マンガ「しあわせのたまご」の連載が全12回でスタートします。

私たちの地域には、さまざまな人が生活しています。年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関係なく、みんなが自分にできる範囲で、まわりの人に「ちょっとした気遣い」ができると、誰もが気持ちよく生活することができます。

「誰もが住みやすい地域」を目指し、親しみやすい「マンガ」や「イラスト」で他者への理解を深めましょう。

あだち地方地域自立支援協議会とは?

本宮市・二本松市・大玉村の2市1村で構成され、地域の障がい福祉に関わる関係者の連携や支援体制などについて協議を行う会です。

問 社会福祉課 社会福祉係 ☎ 24-5371

人は誰でも「病気・障がい・老い」などにより、身体が不自由になるものです。それは決して特別なことではなく、当たり前のことです。このマンガは実際にあった出来事を題材にしました。せっかくの優しい行為が大ケガにつながることもありえます。お手伝いする場合はその方法を本人に聞いてみてください。その方法がベストです。



生活支援部会 宇山 利弘さん

住まいるもとみや

一本宮市での暮らし



七見 匡哉さん ご一家

会津若松市出身。岩根在住。千葉県市川市に8年間住んだ後に、2014年に本宮市に移住されました。

移住・定住ポータルサイトでは、本宮市内の不動産や仕事、子育て情報、移住者の声などを掲載しています。
<http://www.city.motomiya.lg.jp/site/teijyu/>



交通に便利な点が魅力でした。職業柄転勤が多かったのですが、長男の小学校入学をきっかけに本宮市家を建て、引っ越してきました。本宮市を選んだのは、私の実家にも妻の実家にも近く、職場の福島や郡山へのアクセスが良いことが一番の理由です。旅行が好きなのでいろんなところに行くにもインターチェンジが近いのがいいですね。

移住を考える方へのアドバイス
本宮市は子どもあそび場が充実しています。また、私の住む地域では「あいさつ日本一運動」を行うなど、地域全体で子どもを育てていくという意識があり、子育てをするにはとても良い環境だと思います。

